

第13期第6回国立市ごみ問題審議会 議事録

日 時 令和5年(2023年)2月7日(火)午前10時～正午
場 所 国立市役所3階 第1会議室
出席者 山谷会長、山崎副会長、楠田副会長、内海委員、北委員、北村委員、田中委員、長嶋委員、山岸委員(委員は50音順)
事務局 黒澤生活環境部長、清水ごみ減量課長、吉村清掃係長、大倉環境センター所長、新清掃係主任

【議事要旨】

1. 国立市循環型社会形成推進基本計画に基づく進捗状況(2021(令和3)年度実績)の評価についての答申書(案)について

資料に基づき、国立市循環型社会形成推進基本計画に基づく進捗状況(2021(令和3)年度実績)の評価についての答申書(案)について事務局から説明した。

【山谷会長】前文部分と審議会の評価部分と2つに分けて伺います。まずは前文について、皆さまからご意見を伺いたいと思います。

【楠田委員】1ページの下から6行目、「第1期計画期間においては」の部分について、第1期計画期間が2016年度から2020年度までであることを一般の方は分からないと思います。例えば、「第1期計画期間(2016年度から2020年度)」というように加えたほうが分かりやすいと思います。

また、今回は令2021(令和3)年度実績の答申書のため、2016年度から2020年度までの内容があることに違和感があります。第1期計画期間が2016年度から2020年度までであり、その5年間の総括であるという文意は分かります。その総括の結果も含めて、引き続き経過を注目していく必要があるというふうにまとめたほうが、読者としては分かりやすいと思います。

【山谷会長】事務局はいかがでしょうか。

【事務局】修正します。

【山崎委員】2ページの上から3行目「平均を下回り」の部分とグラフについて、国立市の2021年度の市民1人1日当たりのごみ量は、多摩地域平均を下回っているということで合っていますか。また、下回ったのは2021年度が初めてということでしょうか。

【事務局】その通りです。

【山崎委員】これについては、素晴らしい進歩だと感じております。そのため、「初めて多摩地域の平均を下回った」というように、強調しても良いと思います。これに勢いをつけて、今後も頑張っていこうというような雰囲気が出ると良いと思います。

【事務局】2ページの上から3行目「平均を初めて下回り」というように修正します。

【山谷会長】2ページの上から7行目「平均をやや下回り」の部分は「平均をやや上回り」の間違いだと思います。総資源化率は、26市の平均よりやや高いところにあります。26市のうち13位のため、「中位につけることができた」ということです。

【事務局】修正します。

【山岸委員】総資源化率は高いほうが良いのでしょうか。

【山谷会長】はい、高い方が良いです。資源化率を高めるということは非常に難しいです。新聞は資源物としては大きなウエイトを占めていますが、新聞購読者の減少などもあり、僅かこの10年間で新聞の発生量自体が半減しているという市もあるようです。活字媒体ではなく、インターネット等で情報を取るという人がすごく増えています。これらを鑑みると、資源化率を上げていくことは非常に難しいところであると思います。

1ページの下から5行目「2017(平成29)年9月より家庭ごみ有料化を実施した。」という部分について、有料化によって家庭ごみが大きく減少したことについても文章を加えた方が分かりやすいと思います。

【事務局】1ページ下から6行目「第1期計画期間(2016年度から2020年度)においては、2017年9月より家庭ごみ有料化を実施し、市民1人1日当たりのごみ量(集団回収含む)が791.3gから746.2gまで減少した」という文章でいかがでしょうか。

【山谷会長】2ページのグラフにつながる内容にすると分かりやすいと思います。そのような文章にしましょう。

続きまして、審議会の評価部分について、ご意見を伺いたいと思います。

31ページ(4)中間処理「発電量の維持に努め、運営費用の節減等」の部分について、「等」ではなく「と」です。

35ページ(4)中間処理「他自治体との相互支援、体制」の部分について、「、」は不要です。

39ページ(6)制度、施策の充実等「雑紙のリサイクルなどの資源循環についてなどの身近なごみ問題について」の部分について、「雑紙リサイクルなど身近なごみ問題について」で良いと思います。

続けて「身近な問題について、市民、学生が学べるような講座をオンラインでの開催を検討」の部分は、「オンラインでの開催を含めて検討してほしい」とすると良いと思います。

43ページ(6)制度、施策の充実等「有料化の手数料収入の用途を再検討し」の部分について、再検討だと何かの課題に直面しているように受け取られても困りますので、「有料化の手数料収入の用途を点検し」とすると良いと思います。

2. 国立市食品ロス削減推進計画(案)について

資料に基づき、国立市食品ロス削減推進計画(案)について事務局から変更点の説明及び今後の進め方を報告した。

【山谷会長】皆さまからご意見を伺いたいと思います。もうここまで来ているため変更などは事務局にお任せしますが、7ページ「3食品ロス削減推進計画の体系」のエシカル消費の実践について、(家庭)は5点、(店舗)は4点となっています。仮に5点目を入れるのであれば「(店舗)季節商品の予約販売」とするのも良いかと思います。例えば、恵方巻きは今までたくさんの食品ロスが発生していたが、予約販売方式を導入したところとても減少したそうです。また、コンビニエンスストアでは、数年前からウナギを完全予約販売としているようです。

皆さまからもこのようなアイデアがあれば、ぜひご提案いただければと思います。

【内海委員】計画について、実際にどのように運用されていくかがとても重要だと思います。例えば、レストランなどを食品ロス削減協力店として認定し、食品ロス削減に関わる実際の取り組み事例を情報提供する等、積極的に取り組んでいただければ嬉しく思います。

【山谷会長】国立市は、幸いなことにごみ減量協力店制度やエコショップ制度が既にあるので、食品ロス対策に向けて制度をこれからさらに拡充していくということも一つの課題だろうと思います。

【事務局】今後については、家庭系と事業系ともに、食品ロス削減に向けた取り組みを、できることはどんどん実施したいと考えています。また、事業所の方々とも情報共有しながら進めていきたいというふうに考えております。

【山谷会長】この分野はまだまだいろいろな取り組みができる分野だと思います。ぜひ積極的に取り組んでいただきたいと思います。

【内海委員】7ページ（家庭）生ごみ入れない袋の活用について、生ごみ資源化事業に参加している世帯へ無償で配布するというのも一案だと思います。または、生ごみの減量実績に応じて何枚か配布するのも良いと思います。今後参加世帯を募集する時に、良いインセンティブになると思います。

【山谷会長】生ごみを入れない袋を始める時は、インセンティブとして活用していただければと思います。私は多摩市と意見交換をすることがありますが、生ごみ入れません袋は、生ごみを既に自家処理している家庭に対して、生ごみは入れませんということを宣言していただいた上で、何枚か差し上げていました。自家処理をする人をさらに増やしたいということで、実験的に実施していました。2年間程度実施していたかと思いますが、新たに自家処理を始めようという人があまり増えなかったそうです。そのため、生ごみを入れない袋の在庫を活用するため、段ボールコンポストの購入者に何枚か差し上げるようにしました。こちらは効果が大きく、数か月で予算が消化されたようです。やはりインセンティブとしての使い方が重要だと思います。また、広報や周知を徹底し、広く伝わるようにしてほしいと思います。

【山崎委員】13ページ資料1の部分について、担当課等の多くがごみ減量課となっているが、負担が増えていくだけのように感じます。例えば、他の地方自治体では、ユーチューバーを活用した広報をしているところもあるようです。市内の大学生と連携し、広報活動をするなど協力体制を工夫することも考えていく必要があるのではないかと思います。

【事務局】本日、まさに職員が動画作成に関する研修に参加しています。今後は動画の活用も視野に入れながら、ごみの減量や食品ロス削減に関する情報を分かりやすく広報していけるよう検討していきたいと思います。

【山岸委員】以前、LFCコンポストさんが旧駅舎で街頭キャンペーンを実施していました。彼らは楽しみながら活動をしていることが印象的でした。コンポストに関する情報交換にフェイスブックを活用して内容も面白く、心が動きます。良い取り組みを行う団体同士、点と点を市がつなぐ事ができれば大きなムーブメントになるのではないかと思います。情報発信の方法として、一部を外部と連携するなど、すべてをごみ減量課がやらなくても良いと思います。

【事務局】その団体さんと連携強化していきたいという思いはあります。コンポスト購入に係る費用の補助を実施していますが、予算に限りがあり、大々的に打ち出すことが難しいところがあります。予算を少しでも増やすなど確保しながらも取り組んでいければと思います。あと、先日実施し

た災害廃棄物処理計画のワークショップでもその団体さんが来られまして、少し意見交換もさせていただきました。今後は、連携して何ができるかというところの視点でやっていければと思っています。

【北委員】動画などでの広報に力を入れてほしいと思います。また、他の自治体では環境センターや学習センターのような施設があり、そこに子供たちが集まることができるので、少し羨ましい面がありますが、いきなりハード面を整備することは難しいと思うので、まずは対外広報に特化するような部隊を、ごみ減量課の中や、市の中につくるなど広報活動に力を入れてもらえたら良いと思います。

【楠田委員】国立市食品ロス削減推進計画(案)の文章の修正点について、3ページ上から8行目19,044tとあるが、19,045tではないでしょうか。

【事務局】確認して対応したいと思います。

【楠田委員】確認ですが、集団回収を含むか含まないかで数値が変わると説明がありましたが、食品ロス削減推進計画では集団回収を含まない数値で26市の中で少ない方から15番目ということでしょうか。

【事務局】集団回収を除いた数値で26市の中で15番目です。

【北村委員】今後の広報について、最近では小学生が商店街のお店を回り、このお店はSDGsの何で何番を使っているかを調べて、お店の人にも自ら発見してもらおうというようなことがありました。お子さんたちもみんなで話し合って、ここは資源を大事にしているから、これが10何番かなとか言いながらやっている様子でした。学校での子供たちに対する環境教育をきっかけに、地道かも知れないが少しずつ町に広がっていくのかなと感じました。

【山谷会長】なるほど。そうですね。7ページのフローチャートを見ますと、北村委員のおっしゃったことが、小中学生への出前授業、子育て世帯への情報提供ということで書き込んであります。そのことが非常に重要であるというのはおっしゃるとおりですね。

【田中委員】団地の入居者は、高齢者が増えてきて、分別があいまいな部分があるかもしれません。自治会ではごみ減量課との勉強会を企画しているところです。例えば、マヨネーズも一生懸命綺麗にして分別する人もいれば、そのまま捨ててしまったほう楽と思う人もいます。コンポストやミニキエーロなどはなかなか場所が無くて難しいと思うので、まずは最低限のごみの分別をするところを周知できれば良いと思う。

消費者団体連絡会のほうでは、3年前に横浜国大の先生にお見えていただいて、エシカル消費について学習しました。学習することは、理解が深まるので大事だなと思いました。

【山谷会長】ありがとうございます。出たばかりの市報特集号についてですが、「まぜればごみ・わければ資源！分別の再徹底をお願いします！！」と標語が出ていて、非常に良いと思います。

【北村委員】この間、ごみの分別の種類がとても多い地方があると知りました。お年寄りの方は、最初は分別することが面倒くさくて、一々洗って干して何とかだったけれど、継続するうちに習慣になり面倒くさくなくなるという話でした。やはり、分別方法の情報発信を小まめに継続していく事が大切だと思います。

【山谷会長】なるほど。そうですね。そして、ごみの分別に関心を持ってもらい、いろいろ取り組んでいただくというのは非常に重要だと思います。小中学生、高校生、大学生、高齢者など市民の方々はいろいろな状況下におられるため、画一的な広報や周知というのは非常に難しい時代かと

思います。そのような状況の中で、市報特集号の果たす役割はかなり大きいのだらうと思います。

【長嶋委員】フードドライブについて、初めて環境フェスタに参加することのついでに、お米を寄付しました。その際、「ありがとうございます」の一言で終わりました。社会福祉協議会に食品を持っていくと、中に何が入っていますか、2か月間賞味期限ありますね、これを『まごころ』のほうにお名前を記載してよろしいですか、匿名がいいですかというように、対応が丁寧でした。対応の差がとても大きく感じました。また、おうちで不要になったもので寄附していただけるものがあったらばお持ちくださいというような案内が市報などに載っていると良いと思います。

【事務局】フードドライブについては、ここ数年で回数を増やしながらか実施して、一定程度市民の皆さまへ周知できているのではないかと思います。市としては、市報で毎回実績を報告し、そこに御礼の言葉を掲載しているところです。確かに一人一人のそういうお気持ちとかをくめるようなことができれば良いと思いますが、意外とお預かりする件数が多く、量も多い場合にどこまでできるかというのは一つあり、今後の課題、宿題だなというふうに思っています。

【北村委員】お客様が寄付してくれた食材などをNPO法人などに引渡す際に、賞味期限の関係が分からないが、これは受け取れませんと返されてしまうことがある。受け取ってもらえるものや受け取ってもらえないものなどがあり、その辺りでフードドライブは難しいなと感じます。

【山谷会長】実際に協力をされている委員の貴重なご意見というのは、行政としてもぜひ参考にさせていただき、これからは生かしてほしいと思います。いろいろな問題があると思いますが、善意に対して丁寧な対応をすることは非常に重要なことだと思います。

【北委員】食品ロスについて、根本的な考え方を変えていけたら良いと思います。今はまだ、生ごみはどうしても可燃ごみという印象を持たれていると思います。例えば、京都ではごみ袋の分け方として、燃やすしかないから燃やすごみと呼んでいることがあります。最近、京都の亀岡市だったら、もう燃やすごみからさらに燃やすしかないごみという分類に変えるというニュースもありました。まずは、生ごみは、もう今現状は燃やすしかないからやっているのだよというようなところの意識改革みたいなのを、このごみ袋の分類の呼び名とかから変えていってもいいのかなと思います。この有料ごみ袋の黄色の袋のデザインのところに、生ごみはできるだけ省こうみたいなPRを入れるなど、定期的にデザイン改訂しても良いのかなというのがアイデアとして思いました。

【山谷会長】地域性ということもあると思います。1,741市区町村ある中で、1人1日当たりのごみ量で一番小さいところは長野県の川上村というところですが、同じく長野県の南牧村というところは、人口規模も小さな村ですが、可燃ごみ袋の中に生ごみを入れられません。禁止しているそうです。つまり、別の面から見れば、生ごみ処理機の購入補助を手厚くして、誰もが生ごみ処理機を買えるようにして、可燃ごみは入れないで生ごみはリサイクルしましょうと、資源化しましょうということです。それだけでなく、ごみが有料化されています。可燃ごみに入れるものを少なくする動機づけも非常に強いです。有料化の手数料は結構高いです。それから、誰が出したごみか分かるように署名欄がついています。何々地区の氏名、フルネーム。書き込まないと収集してくれないそうです。このようにリデュースやリサイクルの率が高いところは、何らかの工夫をしています。それらの工夫が全て凝縮されたのが今の川上村、南牧村です。自分の出したごみに責任を持たせることを徹底しています。

【北村委員】戸別収集も変なものを出せないという責任感が生まれる気がします。

【山谷会長】そのとおりです。戸別収集の地域で、戸別収集の対象になっている戸建ての家の場合

は、家の前に出すということになりますから、これもきちんとして出さざるを得ないと。記名式と事実上同じような効果があります。

【田中委員】団地では、ごみを誰が出したか分からないので、よそからごみを持ってくる人がいます。また、ごみを置く時間が長ければ長いほど、捨てに来る人が増える感じがしました。朝一に一気に収集して、二度と収集しませんという感じだと、よそからごみを持ってくることもしづらくなるのではないかと思います。

【山谷会長】国立市の場合は、全市の制度としては戸別収集を導入しているわけではありません。家庭ごみを有料化した当時は収集箇所が7,000程度でした。それを年々1,000近く増やしていった、現在ではもう1万箇所ぐらいまで増えているという現状です。こういう形で戸別収集を増やしていくと、だんだんごみ出しがよくなるという効果はあるのではないかと思います。

3. その他

答申の日程について

答申は令和5年3月22日（水）の13時30分から行うこととした。

— 了 —